

会 議 録

会議の名称	令和2年度 第1回 藤岡地域会議
開催日時	令和2年6月23日午後6時30分開会・午後7時22分閉会
開催場所	藤岡総合支所旧議会棟 会議室
出席者氏名	別紙1のとおり
欠席者氏名	別紙1のとおり
事務局職員職氏名	別紙1のとおり
その他出席者等	別紙1のとおり
会議事項	(1)「栃木市立地適正化計画の素案について」(都市計画課意見聴取) (2) その他 ・令和2年度藤岡地域会議だより発行予定表について
会議の公開又は非公開の別	公開
傍聴人の数	無し
その他必要事項	無し
会議の経過	
発言者	議題・発言内容・決定事項
	<p>1 開会</p> <p>2 新委員紹介 前田委員に代わり、栃木市PTA連合会藤岡ブロックより宮本委員、進上委員に代わり、藤岡地域自治会連合会より石川委員が新たに就任したため紹介を行った。 新委員より自己紹介。その後、事務局職員の自己紹介があった。</p> <p>3 あいさつ 神原会長よりあいさつがあった。</p> <p>4 議事 (1)「栃木市立地適正化計画の素案について」(都市計画課意見聴取) <説明> ○事務局 担当課に対し、協議事項の説明を求めた。 ○都市計画課 資料に基づいて説明した。 <質疑・意見等> ◎A委員 コンパクトシティは栃木市内だけ発展するように感じる。藤岡にメリットはあるのか。 ○都市計画課 このままだと今までの生活の利便性が落ちてしまう可能性がある。少なくなる人口を集約し、いかに将来的に持続可能なものにするか。居住と都市機能を近くに集約させることで、都市機能の維持と利便性の向上を図っていく。何も</p>

	<p>しないと都市機能がなくなってしまう可能性があるところを、何とかして持続的に残していきたい。</p>
◎A委員	<p>買い物なども栃木市内まで行かないといけなくなるのか。</p>
○都市計画課	<p>買い物（小規模スーパー等）は誘導を図らないので、基本的に藤岡地域全体にも位置するものであり、制約はない。</p>
◎A委員	<p>藤岡地域にも目を向けていただきたい。バスが栃木市内しか通ってなく、バスだとメディカルセンターしもつがしか行けないが、本当は佐野厚生病院に行きたいという声を聞く。利便性の向上というよりも、藤岡の人は生活圏のメインが佐野なので、バスで佐野に行けるように工夫していただけたら助かる。</p>
○都市計画課	<p>立地適正化計画の中では、「コンパクト・プラス・ネットワーク」という言葉があるように公共交通の充実は非常に重要。これは市の中で完結するような話になってしまうが、公共交通の連携については小山市とも連携を図って乗り入れできるようにしている。佐野とも今後連携を図っていく話で進んではいる。その辺りで、皆さんのニーズを吸い上げながら、病院はもちろん商業施設などどこに行くことで利便性が高まるのか、交通防犯課が皆さんの意見を聞きながら利便性を高いものにしていく予定ではあるので担当の方には話しておく。</p>
◎B委員	<p>見当はずれな質問かもしれないが、2つある。1つは、47ページの誘導施設の設定で、藤岡地区では文化会館に印がないが、今ある文化会館はなくなるのか。</p>
○都市計画課	<p>文化会館については、複合化検討が進められていて、基本的には1カ所になる予定でいる。</p>
◎B委員	<p>栃木市文化会館？</p>
○都市計画課	<p>まだ場所などは決まっていないと思うが検討が進んでいる。合併して類似施設がたくさんあり、現状を維持していくのは財政的にも厳しいため、色々な施設の統合を担当で検討している。その中で、文化会館も統合していこうということで検討が進んでいる。今回は色々な関係課との施策を連携して作らなければいけないということもあり、ここで文化会館を誘導すると位置付けてはいない状況。</p>
◎B委員	<p>あの文化会館があることで、文化祭や藤岡地域独自の行事が行われているが、集約されてしまうと、藤岡地域での文化活動がかなり下火になってしまうのではないかと思います。もう1点ですが、公民館については何も記載がないがこれは別問題なのか。</p>
○都市計画課	<p>公民館については、皆さんの地域の近くにあった方がいいもので、集約するべきものではないだろうと、位置づけとしては基本的にはしていない。</p>
◎B委員	<p>最後にもう1つ、12～15ページの高齢化率、人口増減率を色別で表した地図があると思うが、なぜ遊水地が色付きなのか。遊水地は白抜きで表すべきではないか。他の地区と同じように色が付いている。遊水地は高齢化にはならないのではないか。藤岡地域は遊水地の71.2%を占めていて、とても大事な場所ですが、他の地区とは一種趣が違うとは思いますがどういう訳か。</p>
○都市計画課	<p>遊水地の部分については全て遊水地のエリアではなく、隣の板倉との接点辺</p>

	<p>りにも住民の方が住んでいるということで数字を拾い、色付けされていると思われる。遊水地だけということで設定していない。</p>
◎B委員	<p>どうして遊水地を白抜きにしないのか。</p>
○都市計画課	<p>遊水地の部分は人が住んでいないということで、白抜きの方がわかりやすい部分もあるので遊水地のエリアは都市計画課の方で白抜きにします。</p>
◎B委員	<p>当然白抜きだと思う。</p>
○都市計画課	<p>了解しました。</p>
◎C委員	<p>立地適正化計画については、コンパクトシティということで今の時代やむを得ないと思う。文化会館などの統合も、市の公共施設の立地管理計画からいけば栃木で30%、ある程度仕方ないと思う。B委員が言ったようにそこで活動できる場所については残していただけたらと思っている。立地適正化計画からはずれると思うが、72ページにある市街化調整区域に対する対応というものをやっていただければ、調整区域が一番大きい問題だと思う。そういったところの対応を市として適切にやっていただけたらと思う。都市計画課が担当ではないのは分かっているが、計画を立てる上で併せて作っていただきたい。</p>
○都市計画課	<p>立地適正化計画は国の制度の中で、基本的には市街化区域の中でコンパクトにしようという計画であるが、それと併せて、調整区域の方のまちづくりの方向性も考えるようにとの話があった。この計画上位置づけはできないけれど、上位計画で都市計画マスタープランというものがあり、そこで位置付けようというのもひとつある。地区計画という制度を活用すると、調整区域でも開発ができるというものがあり、今年修正をしたが、地区計画を活用するための方針を作っていて、小学校付近で住宅開発ができるような仕組みを作った。そういったことも併せ、市街化区域と市街化調整区域それぞれ整備を進めていけたらと思う。</p>
◎C委員	<p>地区計画という話が出たが、話が出ているところはあるのか。</p>
○都市計画課	<p>今現在、物流系の関係でこの制度を使って開発できないかとの相談がある。この制度ではっきり示す以前から地区計画を20個ほど作っていて住宅系、物流系、産業系の地区計画もある。</p>
◎C委員	<p>20戸連坦、50戸連坦とかそういった部分とはまた別か？</p>
○都市計画課	<p>別になる。50戸連坦は近い距離で、家が集約しているところに家を建てられるという制度。地区計画は面的に整備するイメージである。一定の条件はあるが、小学校周辺や駅周辺であれば市街化調整区域であったとしても、時間はかかるが制度を活用して整備する仕組みは作っている。</p>
◎D委員	<p>スケジュール、概要は読ませてもらったが、非常に大変なことだと思う。A委員も言ったように、藤岡、大平、岩舟などの地域で生きてきた人間からすると、いきなりこういう話をされた時に、うちの地域はどうなるのか、という質問は当然出ると思う。実際に、部屋地区の場合には、藤岡第二中学校の統合が平成28年に発表されたが、教育委員会の方では既成事実として決まっていた。それが地元の説明という形できたのが平成28年度で、3年後に統合しますという話だった。地元の方ではこれを聞いた時に「えっ？」という話になっ</p>

	<p>た。要は、こういう計画を進めるに当たって、情報公開が非常に陳腐である。知ってる方は知っていて、知らない方は全然知らない。まして、ある一定の年齢になると情報が入ってこない。それなのに地元で力があるのはある程度年齢がいったる方で、そういう方が賛同しないとこういう計画を進めるのは難しいと思う。今、色々情報公開をされて、メディアなどの媒体があると思うが、藤岡地域は回覧版や広報しか目にすることがない。こういった大事な将来的なものであればあるほど事前に地域の住民に行きわたるよう説明をして欲しい。現在民生委員として、高齢者と関わっているが、高齢者がもっと増え、都市部に行けなくなる方もたくさん出てくる。我々からすると先のことではなくすぐ近くのことなので、全ての方に周知がされるよう事前に考えていただきたい。</p>
◎E委員	<p>個人的な意見だが、A委員と思いが同じである。この案に関しては、旧栃木市内でだったら話は分かるが、藤岡地域では厳しいのではと感じた。コンパクトシティを目指すのに、藤岡はふさわしい場所なのか。水道や電気などのライフラインはすでに整備され、随時更新されていると思うが、駅から徒歩800メートル圏内というのはこの地域にふさわしいのか疑問を感じる。コロナ禍で世の中が変わってきて、都市に住むことに限界を感じている人が多くなり、人の移動があると予想される。その中で、大都市圏へのアクセスの良さは藤岡のメリットだと思う。高速道路や駅もあるので、人の誘導に目を向けてもいいのではないかと。人口の減少で今までの生活ができなくなると書かれているが、元々藤岡の人口は約15,000人、2045年には約10,000人に減ることが予想されているが、何十万人とかではなく、5,000人減るところで、コンパクトシティにしなければ都市機能を果たせないようなところなのか非常に疑問を感じる。栃木市全体に合うプランなのか、旧栃木市に目を向けたプランなのか疑問を感じる。</p>
○都市計画課	<p>立地適正化計画は、作ったからと言って急激にコンパクトシティが進むわけではなく、規制ではなく、緩やかな誘導をしていく。例えば、小さいお子さんがいて郊外で暮らした方が便利なら郊外で暮らしていただき、高齢者の方で車の運転に不安がある方は中心部や交通機関が充実したところに引っ越しをしていただくなどライフステージ、ライフスタイルの変化のタイミングの時に移動していただくためのきっかけづくりとしてこの計画を作っている。その時に市としては、強制ではないが、中の方に誘導していきたいということで区域を明示している。将来的な部分の中で、現在藤岡地域でそぐうかそぐわないかの答えは難しいが、今あるスーパーなどが5,000人減った時に、撤退の可能性が出てくるので、将来、利便性が下がってしまうようなことを防ぐために今から手を打っておくための施策である。</p>
◎F委員	<p>今の藤岡町は、色が染まっている場所（中心部）よりも赤麻や三鴨に人口が増え、家が建っている。中心部は空き家が増えていて、空き家を壊すこともできず、そのままになっている方が多い。コンパクトシティを考える時に、既存にあるものの処分をどのようにするか、市街化区域の中であってもライフラインである上下水道が整っていないと、新しくこのエリアの中に家を増やそうと</p>

	<p>しても共同管で、管を太くしなくてはいけない。また、管を太くするのは家を建てる人の負担のため、どうしてもこのエリアは人が増えなくなってしまっているのが現状である。逆に、三鴨地区などは大きな管が道路の下に入っているため、引き込みやすい。住んでいる方を増やすこの計画も必要だと思うが、そういったところももう一度見直していただいて、エリアをもうちょっと考えていただけたらと思う。実際藤岡内には、店舗が少ないので、佐野にみんな行ってしまうのが現状。栃木市内は、駅前はどんどん発展し、行くたびに栄えているが、そういったものと藤岡を同じにするのは今の時点では厳しいと思う。市の施策としてこういうことをやっていきたいことは分かるが、市街化の中で色分けするだけではなく、市街化調整区域エリアも含め、もう一度検討して欲しい。</p> <p>◎会長 立地適正化計画そのものと地域の活性化は別問題だろう。区域を指定したら、藤岡の市街地が前よりも活性化するかといったそれはまた別だと思う。今回、都市計画課の提案については、立地適正化の地域の区域指定ということで、活性化はまた別の担当課で考えることにして今回の説明については、こういう区域で指定をするという提案であると考え、今回の素案についてみなさんにお諮りしたい。区域指定そのものについて何か異論はありますか。</p> <p style="text-align: center;">— 異議なし —</p> <p>◎会長 区域指定そのものについて異論はないということなので、今回の栃木市立地適正化計画の素案について適当と認める旨で回答したいと思う。担当課の方には今回出た意見に関しては、担当部署に反映していただけるようお願いしたい。</p> <p>◎会長 事務局に所定の手続きをするよう伝えた。</p> <p style="text-align: center;">— 都市計画課職員は退席 —</p> <p>◎会長 次の議題に入ることを述べた。</p> <p>○事務局 (2) その他 令和2年度藤岡地域会議だより発行予定表について事務局に対し説明を求めた。 資料に基づき説明した。 引き続き、栃木市市民会議委員に神原委員、栃木市子ども・子育て会議委員に野澤委員を推薦した旨報告した。</p> <p style="text-align: center;">— 質疑等なし —</p> <p>◎会長 他に意見等がないため、以上で(2)その他の協議を終了するとともに次第4の議事を終了することを述べた。</p> <p>○事務局 5 その他 事務局から以下の3点について連絡した。 ・「第8回地域会議会議録の写し」について</p>
--	--

○事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「藤岡地域会議委員名簿」について ・「令和2年度藤岡地域まちづくりセンター緊急連絡先」について <p>次回の地域会議は、令和2年7月28日（火）午後6時30分から同会場で行う予定である旨を連絡した。</p>
○事務局	<p>6 閉会</p> <p>午後7時22分をもって第1回藤岡地域会議を閉会する旨を宣言した。</p>

別紙1 出席者及び事務局職員

出席者（委員）

会長	神原邦夫	副会長	片柳理光
委員	青木雅之	委員	岡弘樹
委員	上岡裕美子	委員	福地克人
委員	星野清	委員	宮本秀希
委員	横田久雄	委員	石川正雄
委員	野澤和子	委員	町田佳子
委員	松島宏恵	委員	大澤孝子
委員	早乙女順子	委員	山土家裕子

欠席者（委員）

なし

出席者（事務局）

総合政策部藤岡地域づくり推進課（藤岡地域まちづくりセンター）

寺崎公夫（課長）

加藤栄一（課長補佐兼地域づくり推進係長）

北村あゆみ（主査）

出席者（担当課）

都市整備部都市計画課

鈴木宏彰（副主幹兼計画係長）

吉田容子（主査）